

上尾市立富士見小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

未来を切り拓く 心豊かな児童の育成
かしこく やさしく 元気よく

学校課題研究主題

「未来を切り拓く児童の育成」
一絆とつながりを大切にした指導を通して-

学力・学習状況調査の結果

R7 全国学力・学習状況調査	R7 埼玉県学力・学習状況調査	R6 上尾市立小・中学校学力調査
- 国語、算数、理科の全てで、県および全国の平均正答率を上回っている。 - 国語では、全ての学習指導要領の内容区分で全国平均を上回っており特に「(3)我が国の言語文化に関する事項」で高い正答率である。 - 算数では、特に「A 数と計算」の領域が、他の領域と比べて平均正答率が高い。 - 理科では、「粒子を柱とする領域」「生命を柱とする領域」「地球を柱とする領域」で高い正答率だった。一方、「エネルギーを柱とする領域」では、全国平均を下回った。	- 国語は、4年生で平均よりやや上位、5年生と6年生では高い水準で安定していた。さらに、6年生で+0.49と大きく伸びていた。 - 算数は、4年生では国語の「5-A」と比較して課題が見られた。しかし、5年生では改善し、さらに6年生ではレベルを維持しつつ、昨年度からの変化量（伸び）が国語と同等の大きな伸びを示していた。 - 全体として「作業方略」にやや課題が見られた。	- 国語、算数共に全学年の正答率が全国平均を上回っている。 - 正答率は観点「知識・技能」は両教科共に目標値を上回っている。 - 領域では、国語は「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数は「データの活用」が高い。一方で国語「書くこと」で目標値を下回る学年もある。 - 基礎基本の学習の確実な定着が課題である。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容 ②体験や交流から得られる新しい見方や考え方	③課題解決に必要な既習事項を選択し、予測・試行・工夫をしながら新たな気づきを生み出しながら新たな気づきを伝え表現する力	④自らの目標を設定し、達成に向けて主体的に学ぶ態度や周囲（友達・教師等）と関わり合い、協働し、互いに学び合おうとする姿勢

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
- 各種学力調査の結果から得られた課題を基に指導の重点を明確にする。 - 単元の指導を一時的なものにせず、計画的に繰り返し取り組ませる。 - 協働活動や学び合いの場を意図的に設け、ICT機器を活用し、多くの考えに触れさせる。	- 児童の問題意識を高める課題設定を行うとともに、多様な課題解決のできる授業展開を行う。 - 試行錯誤し、独自に工夫したことを表現させる場を設けるとともに、考え方の多様性を褒め称える指導を行う。	- 学びを個々で完結させず、学びの成果や作品等を他者に表現することを学習のゴールに設定する。 - 個の活動、グループ活動、一斉授業等を計画的に位置付け、目的意識をもたせた体験活動や学び合いを行わせる。

本校の特色ある取組

- 教科専科制による学習指導（5・6学年、7教科）、学年内交換授業（1～4年、学活・道徳）
- 読書タイム、環境学習、あいさつ運動等、多様な学びの推進

家庭教育との連携

- さくら連絡網を活用したオンラインでの手紙配布やアンケートの実施、出欠席の連絡、学校応援団の募集や日程調整
- 学校ホームページを活用した情報発信

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容 ②体験や交流から得られる新しい見方や考え方	③課題解決に必要な既習事項を選択し、予測・試行・工夫をしながら新たな気づきを生み出しながら新たな気づきを伝え表現する力	④自らの目標を設定し、達成に向けて主体的に学ぶ態度や周囲（友達・教師等）と関わり合い、協働し、互いに学び合おうとする姿勢



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ③	① 経験したことや想像したことなどから書くことを見つけ、語と語や文と文との続き方に注意しながら文章を書く取組。 ③ 分かりやすく考えを表現する力を向上させるため、考えたことを一人一人が友達に伝える取組。	
算数	① ③	① 既習の学習内容をくり返し習熟する取組。 (計算カード、フラッシュカード、計算ドリル練習等) ③ 自力解決や発表活動を取り入れ、思考力を高める取組。	
生活	② ③	② 身近な人々や自分が住んでいる地域に関わる活動を通して、集団の中で安全で適切な行動について考えさせる取組。 ③ 動植物を飼ったり育てたりして、それらの育つ場所や変化、成長の様子に気付かせるとともに、生き物への親しみをもち大切にすることを養う取組。	
音楽	① ④	① どの単位においても歌唱を取り入れ、聴唱・階名模唱・階名暗唱、情景・気分、自分の歌声・発音に重点を置く取組。 ④ 鑑賞では、より具体的に想像が膨らむような曲やリズムの違いを味わう曲など、様々な音楽に親しみ自由に思いを膨らませ、味わって聴くようにする取組。	
図画工作	① ④	① 形や色、方法、材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養うために導入の工夫をする取組（参考作品提示、ICT活用、実物提示）。 ④ 友達の作品などから自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。	
体育	① ④	① 体づくり運動では、様々な用具や様々な動きを取り入れた運動を行い、楽しみながら体の基本的な動きを総合的に身に付ける取組。 ④ ゲームの行い方を工夫したりルールを守ったりしてゲームを楽しんで行う取組。	
英語活動	① ② ④	① 授業ごとに取り入れる活動を変えながら繰り返し学習表現を発話させる取組。 ② 同じ歌を複数回扱い、英語が自然と出るように口慣らしをさせる取組。 ④ 単元の最後には、英語を用いて友達同士でコミュニケーションをとる時間を設定する取組。	
特別の教科 道徳	③ ④	④ 自分との関わりの中で捉える時間を設定することで道徳的価値の自覚を促す取組。 ③ ロールプレイや役割演技を活用し、自分の思いや考えに気付かせる取組。 ④ 道徳ノートを学習の記録として教育活動に活用し、自己の成長を実感する取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容 ②体験や交流から得られる新しい見方や考え方	③課題解決に必要な既習事項を選択し、予測・試行・工夫をしながら新たな気づきを生み出しながら新たな気づきを伝え表現する力	④自らの目標を設定し、達成に向けて主体的に学ぶ態度や周囲（友達・教師等）と関わり合い、協働し、互いに学び合おうとする姿勢



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ②	①主語や述語、修飾語、文と文のつながりに着目させ、全体の脈絡を捉えるようにして文章を書く取組。 ②互いの意見の共通点や相違点に着目して考えを伝え合わせ、多様な見方や感じ方に気付かせる取組。	
社会	① ③	①資料の読み取り方を提示し、丁寧に指導する。読み取りができるようになったら、資料と資料を関連付けることで、思考力を養う取組。 ③授業の中で、思考判断する時間を十分に確保し、言語などで表現できるような場面を取り入れる取組。	
算数	② ③	③授業の中で、思考判断する時間を十分に確保し、言語などで表現できるような場面を取り入れる取組。 ②図形の問題に関しては、実感してとらえられるように、図形の操作や作図を活用して説明するなど、数学的活動を取り入れた指導を行う取組。	
理科	① ④	①観察等では、変化を他の事象との関わりでとらえられるように、多角的な見方やとらえ方の指導を行う取組。 ④実験で予想を立てるときに、根拠を明確にしてノートにまとめさせ、グループで話し合うようにさせる。それをもとに実験を行い、結果と分かったことを関連付けて考えさせるようにする取組。	
音楽	① ④	①リコーダーの技能の向上を目指すとともに、意欲的な表現ができるようにする取組。 ④発表会などの機会に、表現することの喜び、合わせることの楽しさを味わわせる取組。	
図画工作	③ ④	③経験を生かして、自分の表したいことが表せるよう、手や体全体を使う活動内容を授業の中に取り入れる取組。 ④身近な作品や自分たちの作品を校内に掲示したり、学級で鑑賞したりすることで、造形的なよさなどに触れ、自分の見方や感じ方を広げる取組。	
体育	③ ④	③児童の実態に合った場を設定することで、自己の能力に適した課題をもって活動できるようにする取組。 ④自己の課題を見つけ、その解決のための活動を工夫し、考えたことを友達に伝えさせる取組。	
外国語活動	① ④	①学習表現と合わせた歌を設定し、単元を通して表現を繰り返し発話させる取組。 ①毎時間復習の時間をとり、学習表現の定着を図る取組。 ④必要感のある課題を設定し、コミュニケーションをとる必然性を意識付けさせる取組。	
特別の教科 道徳	② ③ ④	②自分との関わりや友達の考えにふれる時間を設定することで道徳的価値の自覚を広げる取組。 ③話し合い活動の時間を適切に設けることで、多面的に物事を捉えられるようにする取組。 ④道徳ノートを学習の記録として教育活動に活用し、自己の成長を実感できる取組。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①児童の継続的な学びの基盤となる基礎的基本的な学習内容 ②体験や交流から得られる新しい見方や考え方	③課題解決に必要な既習事項を選択し、予測・試行・工夫をしながら新たな気づきを生み出しながら新たな気づきを伝え表現する力	④自らの目標を設定し、達成に向けて主体的に学ぶ態度や周囲（友達・教師等）と関わり合い、協働し、互いに学び合おうとする姿勢



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	① ②	②自分の主張だけでなく、相手の考えもよく聞き、意見や立場の違いについて考えながら話をするようにさせる取組。 ①主張に対する理由を根拠付けたり、文章構成を順序立てて整理したりして、分かりやすく表現して文章を書くようにさせる取組。	
社会	② ③	②資料の読み取り方を提示し、丁寧に指導する。読み取りができるようになったら、資料と資料を関連付けることで、思考力を養っていく。 ③社会的事象をいろいろな立場から考える。立場によって見方が変わること理解し、相関図などにまとめていく。	
算数	① ③	①四則計算の反復学習を行って正確に速く計算できるように練習させるとともに、ICTを活用して習熟度に合わせた問題に取り組ませる。 ③ペア学習やグループ学習を効果的にいき、どの層の児童も自分なりの考えをもつようにさせる。	
理科	③ ④	④単元の初めに、問題につながる「不思議な現象」を提示することで、児童自ら問題意識をもつことができるようにする取組。 ③実験結果を考察する時間を確保し、グループやペアで話し合うことにより科学的な思考力の向上を図る取組。	
音楽	② ③ ④	④児童の実態を見極め、一人一人の表現力を高めながら意欲的な取組になるように授業展開を工夫する取組。 ②音楽会などの行事や機会、表現することの喜び、合わせることの楽しさを味わわせる取組。 ③鑑賞と表現の関連付けを図り、ICTの効果的な活用をしていく取組。	
図画工作	① ④	④意欲を引き出す指導過程を考えるとともに、多様な表現方法がとれるような題材を設定する。 ①道具や材料の使い方の基本を知るとともに、使い方を練習し、作品作りで活用させる。	
家庭	① ④	①道具や材料の使い方の基本を知るとともに、使い方を練習し、作品作りで活用させる。 ④家族との関わりなどを考えて実践に生かすことで、家庭生活のよさを味わい、家族の一員としてよりよくしようとする態度を育てる。	
体育	③ ④	③運動の特性が十分味わえる場作りを工夫し、自己の課題をもって運動させる。 ④グループ活動を通し、仲間との協力・技能の高め合いを図る。	
外国語科	① ③	①1単位時間の授業において、1つの活動に偏らないように5つの活動を組み合わせて取り入れる。 ③「だれに伝えるか」を意識させ、活用する言語を適切に選択させたり、伝える工夫を考えさせたりする。	
特別の教科 道徳	② ③	②自分との関わりや自分と友達との考え方の違いについて話し合う時間を設定することで道徳的価値の自覚を深める。 ③問題解決的な学習を取り入れ、多面的・多角的に考えられるようにする。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

(2) 教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

1 読書タイム	・毎月第3水曜日の朝自習の時間に、落ち着いた学習環境で読書することにより、豊かな心を育む。また、学校応援団による読み聞かせも行う。
2 鼓笛活動	① 練習を通して、技能を高める。 ② 伝統を引き継ぐ誇りと責任感を養う。
3 環境学習	① 植物や生き物を育てる。在来植物の世話をしたり、富士見ネイチャーワールドの魚や虫など身近な生き物を観察・飼育したりして、自然に触れ、生命の大切さを学ぶ。 ② 自然の変化や植物の様子を見て気がついたことや発見したことをメモし、生活科や理科の授業でまとめ掲示する。
4 家庭学習	① 漢字や計算のドリル学習、音読を取り入れ、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ② 授業以外でも継続的に音読に取り組む。表現・語彙の広がり・文章の理解等につなげる。 ③ 幅広い学習や自ら課題を見つけるために、ICT 端末を活用した、自主学習に取り組む。
5 あいさつの徹底	・時間を守り、心をこめて挨拶ができるようにする。朝、始業、終業、食事など場面に合わせた挨拶を徹底する。
6 ワークスペースの歩行	・ワークスペースの歩行を徹底し、走った児童に対して走った場所からやり直させる。
7 清掃重点習慣	・期間を決め、重点箇所を清掃することにより、正しい清掃の仕方を身に付けさせる。無言で清掃することを意識させ、よりきれいな環境にしようという意欲を高める。
8 学校の生活アンケート	・学校での生活の様子をアンケート結果から把握する。また、生活目標の自己評価をさせることにより、きまりを守ろうとする態度を養う。
9 支援籍学習	・学区内に住む特別支援学校の児童が支援籍学習を本校で行うことにより、インクルーシブ教育を推進する。
10 5・6学年の学年内教科専科制	・学年内の担当教科を受け持つことで専門性を高め、授業の充実を図る。
11 1～4学年の学年内交換授業	・学級活動、道徳の授業を学年内ローテーション制で行うことで、学年児童全員と関われるようにして理解を深める。

家庭教育との連携

1 学校応援団	・ こども 110 番の家、各教科における学習ボランティア、読み聞かせ、環境整備、ゲストティーチャーを募集し、活用を図る。
2 下校ボランティア	・ 地域の自治会長を中心に協力者を募り、児童の登下校の安全確保や声かけを行う。
3 学校・ 学年だより	・ 本校の教育活動の理念や取組、各学年の取組などを知らせるとともに、今後の予定を広報し、家庭・地域への協力を呼びかける。(家族での会話・子供への声かけ・学習の仕方・学習用具の準備・学習環境の整備・宿題の見届け等)のお願い)
4 保健・食育だより	・ 望ましい健康管理や食育について広報し、家庭への協力を求める。
5 学校医との連携	・ 学校医や学校歯科医を招いて保健指導を行い、自分の歯や健康について関心を高める。
6 町探検(総合的な学習の時間)	・ 公共施設や商店を探検し、インタビューをすることにより地域の人に挨拶をしたり、礼儀正しく接したりすることにより地域の一員としての自覚をもつ。
7 中学校区共通 指導目標の設定	・ 中学校区で統一したあいさつと言葉遣いの目標を設定し、9年間継続した指導を行う。
8 学校ホームページ	・ 随時ホームページを更新し、学校の方針や児童の活動の様子を発信する。
9 配信メールの活用	・ 配信メールを活用し、手紙の配布やアンケートの実施、出欠席の連絡、学校応援団の募集や日程調整を行う。